

連載 亀ちゃんにも言わせてよ！

監視社会でもいいのか？

性犯罪者の出所情報

6月1日から警察による性犯罪前歴者の出所情報の活用が始まりました。これは、奈良県で起きた女兒誘拐殺人事件をきっかけとして検討されていたもので、13歳未満の子どもに対する強制わいせつ・わいせつ目的の略取誘拐等の罪で収容されている者の出所（満期も仮出獄も）情報を法務省より警察庁が受けて再犯防止に役立てるためのものとされています。

法務省が出所日や帰住予定地などの情報を警察庁に提供し、その情報は警察庁のデータベースに登録されます。そして、帰住予定地を管轄する各都道府県警本部長を通じてその管轄する警察署長へ伝わり、警部以上の階級の担当官が指定され、その任に当たるといことです。本人の社会復帰の妨げとならないように配慮することが義務づけられており、定期的に帰住予定先に居住しているか確認する際にも外から様子をうかがう程度のすゝるとか、勤務先など関係者に必要のない限り接触しないなどとされています。ただ、データベースに登録された者は、帰住予定地からどこへ何回転居しても、登録の解除（警察本部長が再犯のおそれが高いと判断したとき、警察庁に解除を求める）がなされない限り監視され続けます。

この制度については、市民にも情報提供しなければ意味がないといった声があったり、被害者の年齢を13歳未満に設定する意味があるのか、本人や関係者への接触に制限があるのでは現場は動きにくいといった声もあるようです。

しかしながら、ここで改めて考えていただきたいのは、仮出獄者は別として、刑期を満了して出所した者は、法的にはただの一般市民であるということです。性犯罪前歴がない市民にこのようなことをしたら許されると思いますか。誰もが許されないと思うでしょう。たしかに、性犯罪は累犯

（くり返す）が多い犯罪の一つにあげられています。だから仕方がないのでしょうか。それだけでいいのでしょうか。何か違う対応策はないのでしょうか。

防犯カメラ

このところ急速に街頭の防犯カメラ設置数が増えているように思います。多くの商店街や駅などの公共施設内外など、そこそこで見かけます。犯罪防止や検挙に効果があるということで設置台数が増えているようですが、防犯カメラといえば「私は犯罪者ではない」という人は気にならないかもしれませんが、あなたを含めたみんなを見るための監視カメラだといわれたらどんな気持ちになりますか。何もしていないのに何で自分の行動が監視されるのかと不快に思うのではないのでしょうか。

互いに監視しあわなければならない社会は、過ごしやすい社会なのでしょうか。べつに悪いことをしていないのだから誰に見られていようとかまわれないという人はいるかもしれませんが、悪いことをしているわけでないけど誰かに見られているのは嫌だという人もいるでしょう。犯罪予防や検挙のために仕方がないのでしょうか。それだけでいいのでしょうか。何か違う対応策はないのでしょうか。

託児所のカメラ

一時期、テレビで託児所など乳幼児をあずける施設でカメラをつけて保護者がいつでも携帯電話やパソコンで自分の子どもの様子を確認できるサービスが広まっていると報道していました。なるほど親の立場に立てば仕事の合間にも可愛いわが子の顔が見られるのは嬉しいことでしょう。しかし、そういう見方の人ばかりなのでしょうか。このサービスが報道された頃、託児施設での乳幼

児の死亡事故がよく報道されていた記憶があります。少々うがった見方をすれば、子どもの様子を見るというのは、可愛い顔を見るという意味よりも、無事かどうか確認するといった意味が大きいのではないかと思います。...。そんなことでもしないと保護者の信頼が得られないのかなぁなどと先走って想像してしまいます。何となく気になっています。私だけ？

信じ合いたいよね

人と人が信じ合えない社会では、他人の動きを監視していないと不安になります。でも、信頼関係で結ばれた社会では、そんなことをしなくても安心して暮らせます。思うに、監視社会になりつつある日本は、社会の信頼関係が薄くなってきているということではないでしょうか。そうであるならば、犯罪者の出所情報活用や街頭防犯カメラの設置など現状追認的な施策をし続けるのではなく、根本的なところで、人と人が信じ合える社会をどう実現していくかという施策が求められるのではないのでしょうか。悲しい現状から監視しなければならないことがあるとしても、それは来るべき信頼しあえる社会へ向けて解消されなければならない、あくまでも「一時的な」必要悪でなければならないでしょう。

信じる事が出来るのは人間だけではないのかな？ 他の動物は生きるために必要かどうかとか、そういった本能のみで生きているのではないのでしょうか。人間だから信じ合えるし、信じ合えるから人間といえるように思います。それに、大人が信じ合えない社会では、子どもたちだって人を信じ合えなくなると思いますよ。

亀山憲一 [会員・フリーで活動中の法学研究者
(犯罪学・刑事法)]